

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光 株式会社		
事業所名	グループホームにのみの家		
所在地	津市新家町1488		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町提出日	令和3年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470600418-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年11月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、新家町の高台に立地しており、隣には光明寺というお寺があり春には見事な桜、6月には紫陽花と季節を感じながらお花見させてもらっています。コロナ禍で外出できない中ではありますが、事業所の外に出ると自然豊かな環境の中、四季の移り変わりを感じながら散歩を楽しんでいただくことが出来、とても喜ばれています。施設内では、各フロアで毎月の壁画を利用者様と作り、秋祭りに出品したり夏祭りには当事業所のみでゲームや屋台を楽しんでいただき、流しそうめんやかき氷も食べて頂きました。今年はクラブ活動で華道・茶道を計画し実行に移すべく準備を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新家町の住宅街の奥まった閑静な場所に立地し、隣にあるお寺では四季折々の花見を楽しむことができ自然豊かな環境に恵まれている。1~3階に分かれて3ユニットがあり、それぞれの管理者が独自のカラーでフロアをまとめている。コロナ禍で例年通りの活動ができないことが多かったが、外に出ることができないならばホーム内で楽しみを多く持とうと、職員がアイデアを出し合ってイベントを計画した。中でも、それぞれのユニットで料理を分担して持ち寄り、隣のお寺の境内で花見をしながらビュッフェ形式で食事会を催し大変好評であった。また、クラブ活動として『華道』を実施したことも利用者の笑顔につながった。理念である『和顔愛語』と『利用者本位』を日々目標に支援している姿勢が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を検討していたが、中々決まらず。現状の和顔愛語と実践理念の利用者本位を念頭に置き実践している。	立ち上げ当初から大切にしてきた理念は、目に付くところに掲げられ、日々のケアの中で職員の基本姿勢となっている。職員が常に笑顔でいることが利用者の気持ちの安寧に繋がると考え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は敬老会や運動会などにお誘い頂いていたが、コロナ禍でつながりが少なくなっている。事業所としては徐々につながりが増えており、自治会の回覧板も頂いて交流している。	コロナ禍で例年通りの地域交流はなかったが、運営推進会議で参加者と地域の情報を共有することはできた。隣にあるお寺の伸びた樹木を伐採してもらうように自治会に要望を出し切ってもらおう等、地域との連携は取れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の方の話を聞いたり、入居の相談も受けている。入所には至らなかったが、運営推進会議等で意見交換し地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会とは年々密になってきていると思う。施設の周りの環境の整備等、お互いに出来る事など忌憚の無い意見交換をしている。また防災の件で色々なアドバイスも頂く。自治会が補助金を使い、近々施設の前に防災庫を設置する予定。	自治会役員や民生委員などの参加があり、年6回開催している。事業所の状況を報告し、また地域の実情を知る貴重な意見交換の場となっている。最近では特に防災面での話題が多く、地域との協同体制ができつつある。	コロナ禍で中断してしまった地域との繋がりを取り戻し、さらに近隣の社会資源の広い分野に参加を依頼し、これまで以上に活発な意見交換がされる会議となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前より訪問する事は減っているが、立ち寄った際や電話での相談などしている。ケアサービスのみならず、補助金の件などで連絡を取ったりしながら協力関係を築き、互いに知識向上に努めている。	コロナ感染症予防についての連絡やマスク・消毒液などの受け取りに役所に出掛けた時、担当者に情報を聞いたり、生活保護受給者について保護課と連絡し指導を受ける等繋がりは多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠が無いのは難しいが、帰宅願望があったり外に出るとの訴えがある際は、気分転換に職員と外に出るなどしている。定期的に研修も行っており、理解を深めている。	独自の指針を作成し、身体拘束適正委員会を3か月毎に開催している。職員は研修で身体拘束の弊害を理解し、車いすから滑り落ちる危険性の高い利用者には、その人に合った車いすに変更して対応している。言葉による拘束に対してはその場で管理者が指摘することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の研修で虐待の防止に関する様々な研修を実施しており、虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内にも成年後見制度を利用している方がみえる。内部研修でも勉強し理解を深めている。また他部署でも、成年後見制度を利用出来るかとの話し合いにも参加し、市の職員と協議し現在進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書を読み上げ、納得して頂けるまで説明している。契約後も不明な点があればその都度納得して頂けるよう説明し理解を得ている。今年度は改定等していないが、介護保険報酬の改定の際も説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等は少ないが、要望には出来る限り耳を傾け反映している。現在は看取りまで行っていないが、ご家族様の強い要望により、昨年度に2人看取りを行った。申請していないので加算は取れず。	家族への連絡は施設長・各フロアの管理者があたり、毎月の便りで利用者の様子を伝えている。家族からの要望はそれ程多くないが、最近では看取りを希望する声が多く、今後は体制を整えて取り組む課題になるだろうと話合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は少ないが、効率よく業務を進められるようなど、職員会議や個人面談で意見交換し反映させている。	全体での職員会議はないが、各フロアで毎月会議をしている。その中で出た意見や、日常的に職員から聞いた意見・要望は各フロアの管理者がその都度施設長を通して代表者に伝わるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備はしっかり整っておらず、今後の課題である。職員個々の努力や実績などは、個人面談の結果報告で行っている。また管理者は代表者と定期的に会議を行っており、その都度話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修はコロナ禍で控えているが、内部での研修や資格取得にかかる費用の支援も行っている。評価制度などが整っている訳ではないので、代表者が個々の力の細部まで把握はしていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為中々会う事など難しいが、居宅支援事業所・地域包括・病院などを訪問し、弊社を再度知って頂くと共に、その中で意見交換した事などを取り入れサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時より利用者の話をよく聞き、信頼関係を築ける様にしている。利用者の要望にもその都度応えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込みの際に家族からの要望を聞き、不安が解消されるまで何度も話し合いを行い、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族等との話し合いの中で、今何が必要とされているかを見極め、他のサービスと並行して支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と時間を共有する中で、お互いを知ることにより、より良い信頼関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で普段の面会が出来ない為、家族が不安にならないように、新聞等で普段の様子を伝えたり、受診・往診等があった時にはその都度連絡をし、結果を伝え信頼関係を築ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染の人に会う事も出来ないが、普段の会話に思い出の場所や人との事柄を話題にし、記憶の保持に努めている。	コロナ禍で外出や外食は殆どできなかったが、隣のお寺に四季折々の花見に行っている。また、面会は殆どできない期間はあったが、最近では家族に元気な姿を見てもらえるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々利用者との関わりの中から、利用者同士がお互いに助け合いながら協力できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所後も家族の意向を尊重し関わりを持ち、相談や支援に応えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との普段の会話から思いを聞き希望に添うよう支援している。困難な場合には普段の生活状況をよく観察し、家族の了承のもと支援している。	思いや意向を表出し難しい利用者もいるが、日々の会話は寄り添って理解できるまで根気よく語りかけて取り組むように心掛けている。表情や仕草から汲み取れることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人と十分に話しをし、今までの暮らし方や生活歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日接する中で日々の体調や心の変化を見落とさないように気を付けている。また現在出来る事の維持に努め、見守りながら行って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでの職員会議において、職員・医師や家族からの意向に沿って介護計画を作成し、本人に寄り添った介護を行っている。	毎月各フロア会議で職員みんなでモニタリングをして、プランの確認・変更について意見を出し合い、介護度が上がった時や更新時には家族や医師の意見を加味し、状態に即したプランになるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子や体調の変化を個別に記録し、職員間で情報を共有し、実践する。介護計画の変更時に職員会議でモニタリングを行い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の個々の状況に合わせて対応している。状況によっては直ぐに対応できない事もあるが、可能な限り支援できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の方々と接する機会は中々無いが、施設で出来る範囲のイベント等を開催し、職員や利用者が力を合わせて準備をしながら楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を元に、協力医の往診やかかりつけ医への受診を行っている。今はコロナ禍と言う現状で家族に変わり職員が受診等の対応を行っている。	入居時に以前からのかかりつけ医か事業所の協力医を主治医にするかを決めてもらう。協力医以外は原則家族が受診の付き合いをしている。協力医以外にも緊急の往診を受けてもらえる医院はある。訪問看護も個人契約できるようになった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状看護師は配置していないが、緊急時には個々の担当医に連絡をして指示を仰いでいる。利用者の高齢化・重度化に伴い訪問看護師の検討を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーを通じて定期的に連絡を取り、早期退院に向けて情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より終末期への在り方等についての話し合いを十分に行っている。看取りを希望される事もあり、主治医と連携し支援させて頂いている。	入居時に看取りはしないことを説明するが、最近では看取りを希望する家族もあり、終末期を迎えて自然に亡くなるケースもあった。今後は看取りをする方向で準備を進めていきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で外部研修等は積極的に行っていないが、今居る職員は応急手当や初期対応の訓練は受けている。今まではほぼ対応出来たが、もっと知識や実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。災害別マニュアルに沿って臨機応変に対応出来るよう、職員一同周知徹底に努めている。	年2回消防署に計画書を提出し、防火管理者を中心に避難訓練を実施している。火災・水害・津波の各マニュアルを作成し、ハザードマップや災害時の職員の役割分担表も掲示している。高台であるため地域の救護場所に依頼したいとの声もある。備蓄の準備・管理もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修等で認知症に対する理解を深め、適切な言葉掛けにより近づけるよう心掛けている。	耳の聞こえが悪い利用者が多いため、声掛けもついつい声が大きくなるので職員同士で注意し合っている。利用者の不穏な行動にも何か原因があると考え寄り添って理解するよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々接する中で本人が抱えている思いを汲み取り、希望に添った支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、無理のない範囲でレクリエーション等に参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った服装が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外食が出来ず職員と一緒に食事をする機会は少ないが、普段の食事の時に片付け等を一緒にしている。	献立と食材は業者に依頼し、職員が交替で調理をしている。誕生日などの行事食は本人の希望を聞いて、別メニューでお祝いしている。春には花見を兼ねて事業所の駐車場や隣のお寺の境内で、ビュッフェ形式で食事会を催し好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日記録し、1人ひとりの状態を把握している。明らかに減少していれば医師の指示のもと、栄養補助食品等で補っている。水分量が少なければ好みの飲み物を提供するなど、少しでも水分摂取して頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に声かけや見守りをしながら行って頂いている。拒否等介助も難しい方には、定期的に歯科医に往診してもらい口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のある人は自身でトイレに行っている。その他の方は定時誘導し、少しでもトイレに座って頂き排便排尿を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を付け毎日の排便の有無をチェックしている。便秘気味の人には水分摂取や運動を促している。又医師に相談し便秘薬の処方をして貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望での入浴は出来ないが、週3回の入浴をして頂ける様にしている。体調が悪く入浴出来なかった時は、別の日に振り替えて入浴して頂いている。	週3回を目安に、午後の時間帯で入浴支援しているが、介護度が上がり入浴が負担になれば2回になるケースもある。比較的介護度の低い3階では、利用者が分かりやすいように入浴の順番を掲示し、スムーズに入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて食後横になって頂いたり、午睡をして頂いている。また安心して休んで頂ける様に、自宅ですべての枕や布団を持ってきて頂き、気持ち良く眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的や副作用を理解し、服薬の支援を行っている。症状に変化があれば、その都度医師に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月壁面飾りを作成し、個々の能力に合わせて手伝って頂いている。夏祭りや秋祭りに向け、目標に向かって取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍で外出を控えているが、その分施設の中で楽しみを見い出せるよう支援している。体調に合わせて外気浴等を行っている。	コロナ禍で例年通りの外出はできなかったが、天気のいい日には玄関先のベンチに腰かけて外気浴をしたり、近くを散歩している。コロナ禍で母体の会社が経営している観光名所の花園にも行けず、事業所の外でレクリエーションをしたりみんなで歌を歌うなどして楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては支払いの心配をするなど、お金の大切さを分かっている方もみえる。以前は買い物に外出する事もあり、自身で支払って頂く事もしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば電話をし、家族と話をして頂くようにしている。毎年年初に年賀状を送り、元気な様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月作成している壁面飾りはその月の行事や季節を感じられる様なものにし、心地良く過ごせるように工夫している。	事業所全体に木材が多く使われ、創立時には木の香りが楽しめたことが伺える。現在でも柔らかな雰囲気を醸し出している。リビングの壁面には毎月職員と利用者で立体感のある壁飾りを作成し飾っている。また、毎年グループの秋祭りでは賞を取るために各事業所が競って壁飾りを作成している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にある畳スペースで気の合う者同士が話をしたり、テレビを観るなど思い思いに過ごして頂いている。テーブル分けも会話ができる人同士にするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ってきて頂き、落ち着いて過ごして頂ける様にしている。	居室にも木材が多く使われている。エアコン・ベッド・クローゼット・洗面台・トイレが設備され利用者が使い慣れた家具やテレビなどを持ち込み落ち着きのあるしつらえとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりを使うなど出来るだけ転倒する事無いう、個々の能力の把握に努め移動を支援している。トイレにも手すりがあり、立ち上がり等も安全に出来るようになっていく。		